

一陽海豐園畫
万真意實作

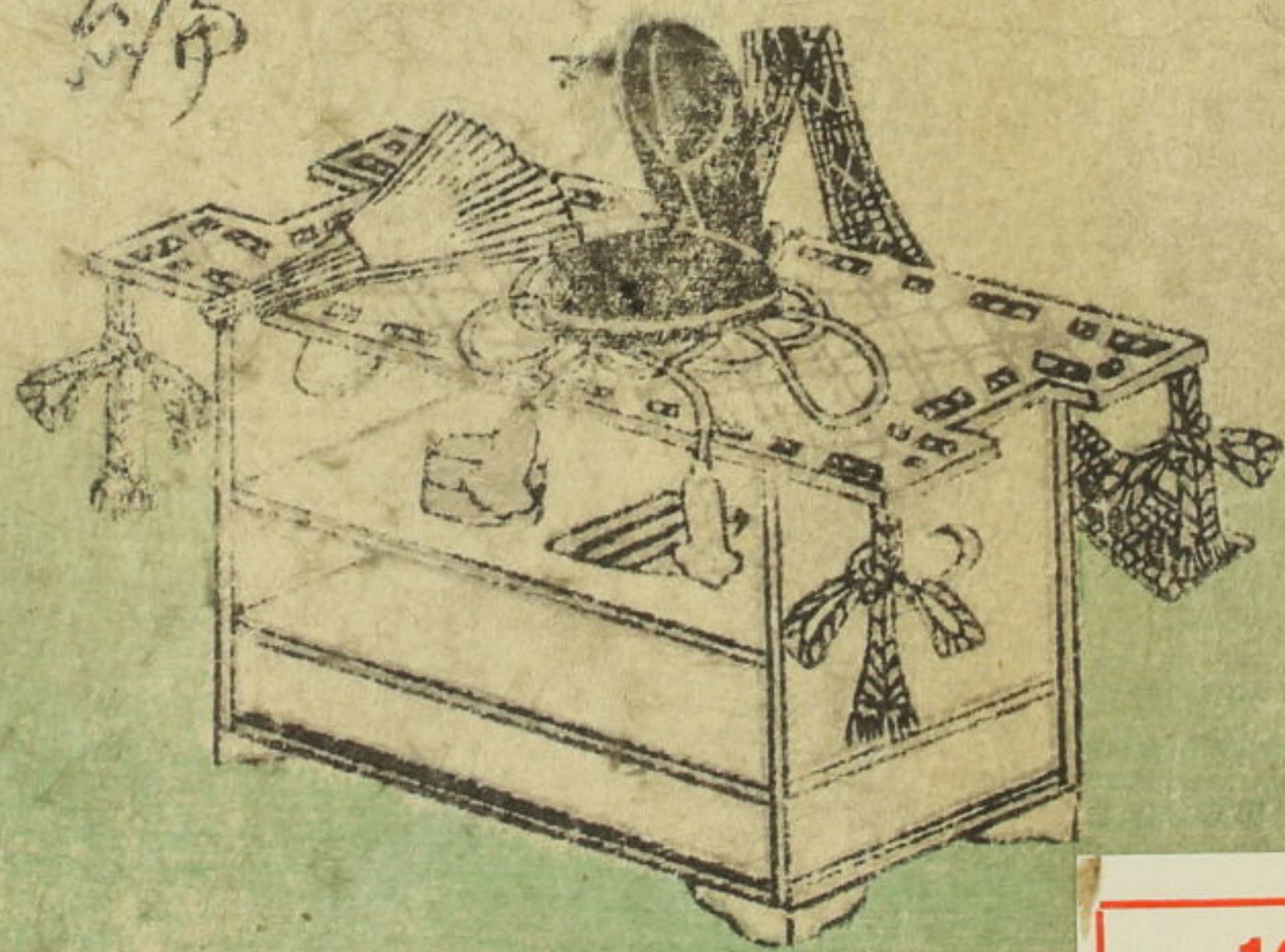
休文
休文

釋
相

庫

三編

上
左
椅



丙午
初夏
新板

~13
3836
1





倭文庫三編

町人形上
上
所屋板

上



一冊
一冊

門へ13
號3836
卷1

午之 春新板

應賀作

豊國画

豊國のみ
園唐吉

錦重堂
上梓



倭文庫三編

上冊

釋迦八相

釋迦八相倭文庫三編の序

夫摩耶夫人の懐胎と諸佛結縁して安ん太子の誕生を以て
忍地天上に於て唯我獨尊の形とつれと天哉性哉血筋乃
母の罪を承け継母のまゝ育ち三歳ありて初て未
妻の母を深く慕ふすこれを三歳の出家と云ふこれハ
皇孫の徳念も一時の懺悔ハ罪障消滅して悉達
子の諱始冠定の祝ひを賀ふ真如の眉をのりたる月
景殿のつとまうまも一犬の虚ハ吼ると万賢の御見物様方
必実ハ傳へべし

弘化三年

丙午の春新版

万亭應賀述





優陀夷

光明大臣



悉達
太子
初冠
と着

優陀夷の
女房

昔の事

浄飯大王
月影殿の
轎曇弥ふ
通未
賜ふ



命婦

轎曇弥

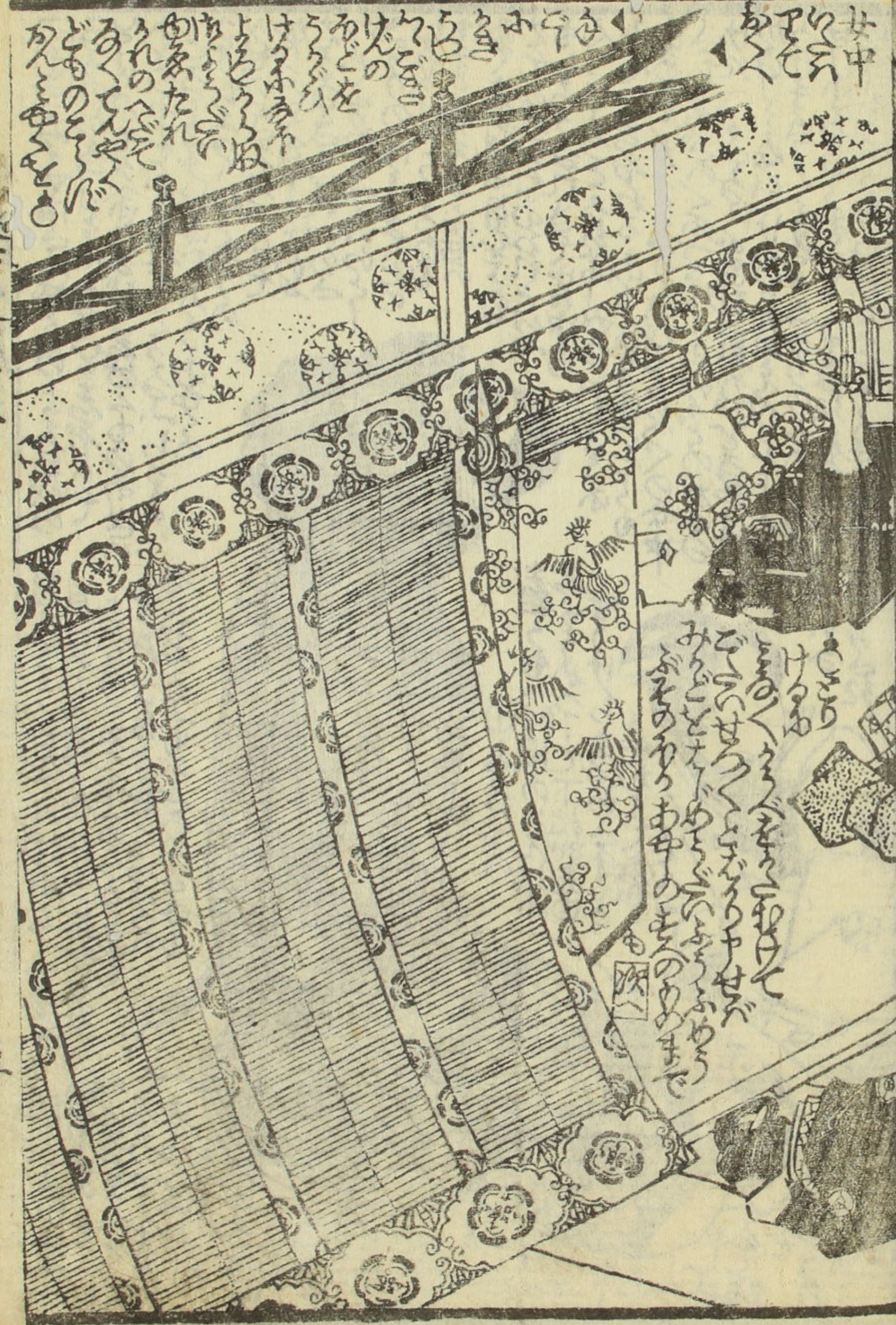


まは夫人はさうけしれぬくたあり
 志がわたりぬらうちあこれぬちを
 うちあうふあうちあうちあうちあ
 かあてゆうらうらうらうらうらう
 かしこくしけれぬらうちあうちあ
 かしこくしけれぬらうちあうちあ
 かしこくしけれぬらうちあうちあ
 まんをわあこれ
 のまをわあこれ
 ふあうあう
 うらうちあ



女中
 かしこく
 かしこく
 かしこく
 かしこく
 かしこく

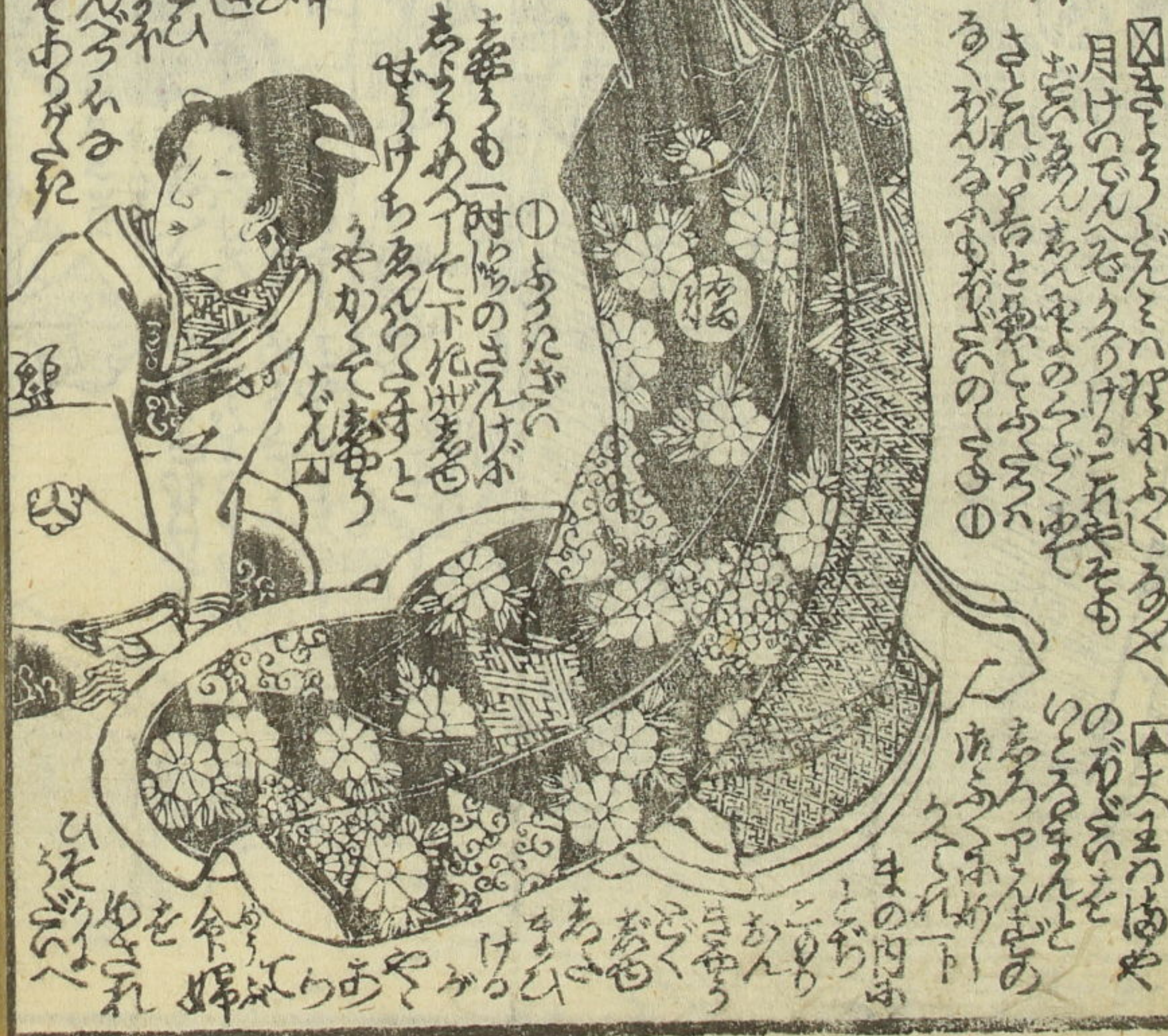
まは夫人はさうけしれぬくたあり
 志がわたりぬらうちあこれぬちを
 うちあうふあうちあうちあうちあ
 かあてゆうらうらうらうらうらう
 かしこくしけれぬらうちあうちあ
 かしこくしけれぬらうちあうちあ
 かしこくしけれぬらうちあうちあ
 まんをわあこれ
 のまをわあこれ
 ふあうあう
 うらうちあ



女中
 かしこく
 かしこく
 かしこく
 かしこく
 かしこく

女中
 かしこく

ついでにちりばり入せしむるのころはさびの
 るうのかやいふ事をもとあつて
 ちりばりもたふたふとあつて
 ああふとやめられてさうさうあつて
 こころをさかしてさうさうあつて
 つらさうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて



さうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて

さうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて



さうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて

さうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて
 かりのさうさうあつて
 たりさうさうあつて

ちりちりの中の中...
 あいつのふく...
 ちりちり...
 ...
 ...



ちりちりの...
 ...
 ...

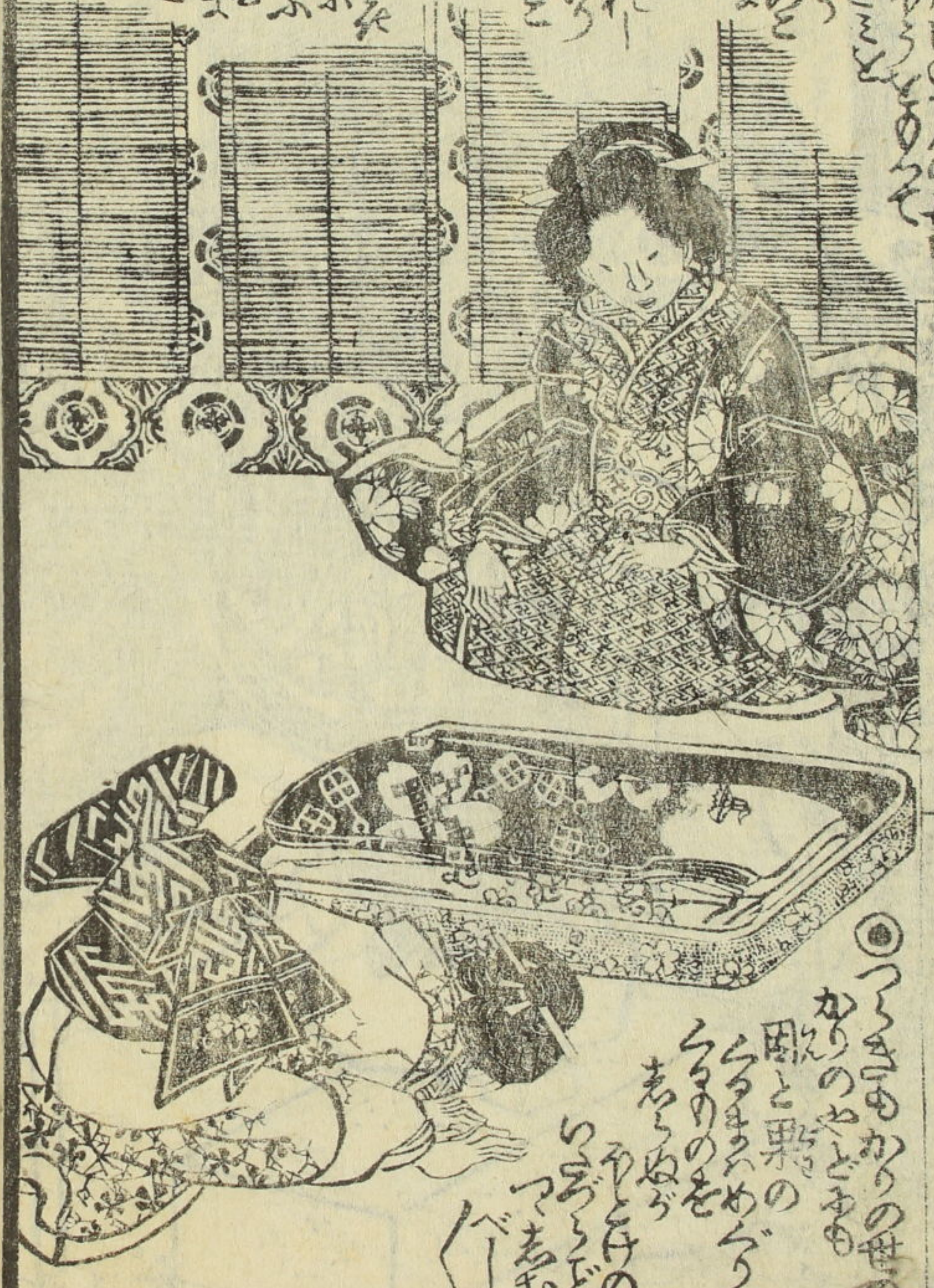
ちりちりの...
 ...
 ...



...
 ...
 ...

錦重堂新板繪紙及錄

「まゝ」のゆるりとのへそちも
 トまふたそくふかとのこころこ
 りたるめそののやむせいらやう
 とんと下めと一月けいでんの甘
 まりごの女やうまもと
 それくふあんまこと
 下これせいのま
 せうの女中い
 らせあんま
 とのちりい
 るこりま
 かいなうちうれ
 るまのよ
 さこのひい
 とりそれく
 兄やぶんのま
 あつれま
 けんけんま
 のともまたひ
 せといま
 のこひのた
 りつかさ
 のまの
 つま
 牙と
 あり



豊国画 應賀作

<p>北日語小栗實説 <small>初編 二編</small> 松亭金水作 陽齋豊国画</p>	<p>茶番獨案文全冊 <small>初編 二編</small> 橘蝶樓貞房作</p>	<p>日蓮記旭衣 <small>初編 二編</small> 力亭應賀作 陽齋豊国画</p>	<p>紫菜淺草土産 <small>三編 四編</small> 一返舎一九作 陽齋豊国画</p>	<p>翁草千歳盃 <small>初編 二編</small> 一陽齋豊国画 萬亭應山作</p>	<p>赤松物語 <small>初編 二編</small> 如淵外史作 陽齋豊国画</p>	<p>釋迦八相倭文庫 <small>五編 六編 七編 八編</small> 一陽齋豊国画 萬亭應賀作</p>
--	--	--	--	---	---	---

「まゝ」のゆるりとのへそちも...
 のこひのた...
 つま
 牙と

陽齋豊国画



万亭應賀作

丙午ノ春
新板

Ⓣ



かよと

ふんた

ふんた

江戸人形町通

上野屋市板

弘化二年

午のま

あゝかえれ

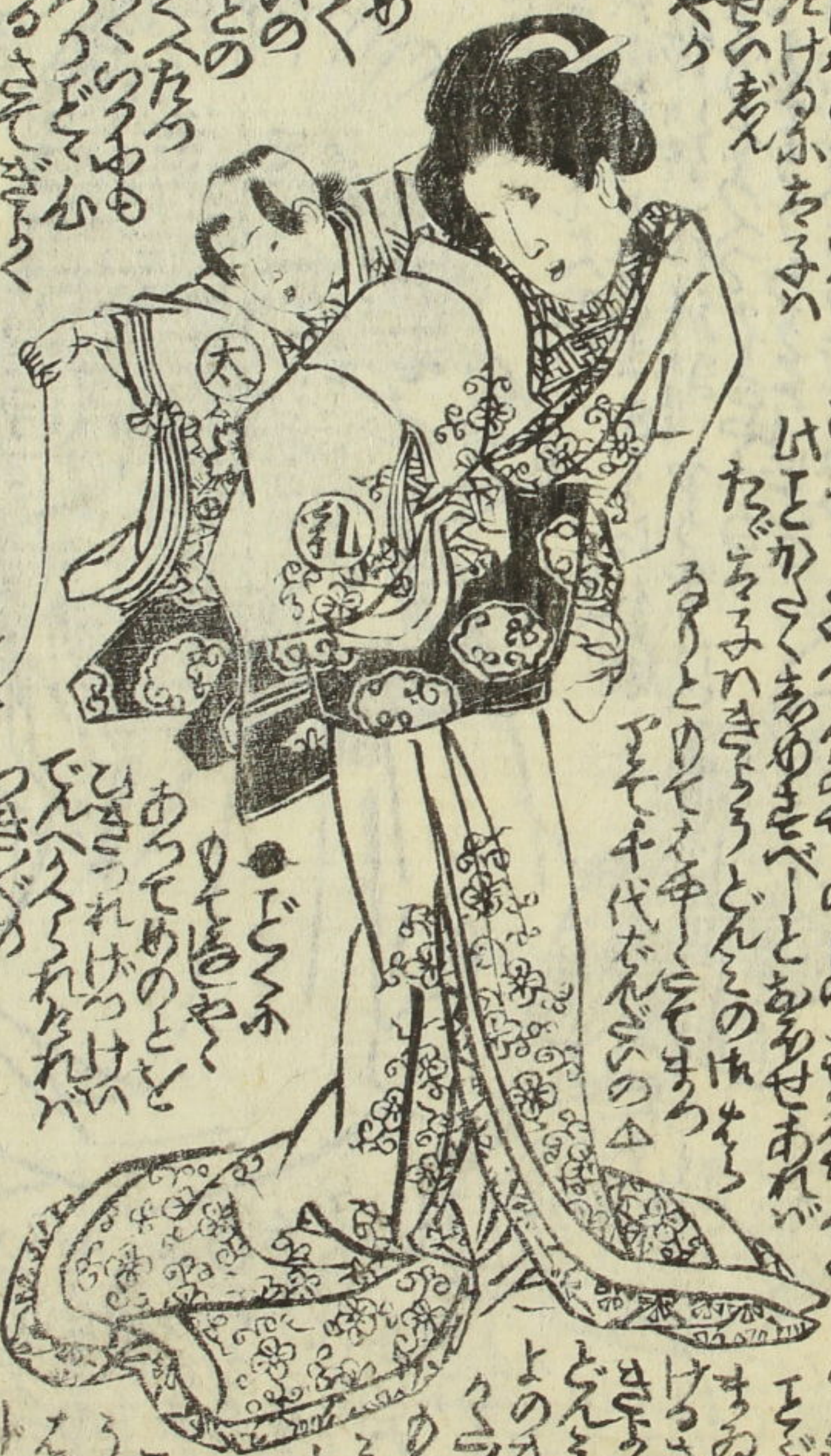
をらふ魚

豊國只
國書也



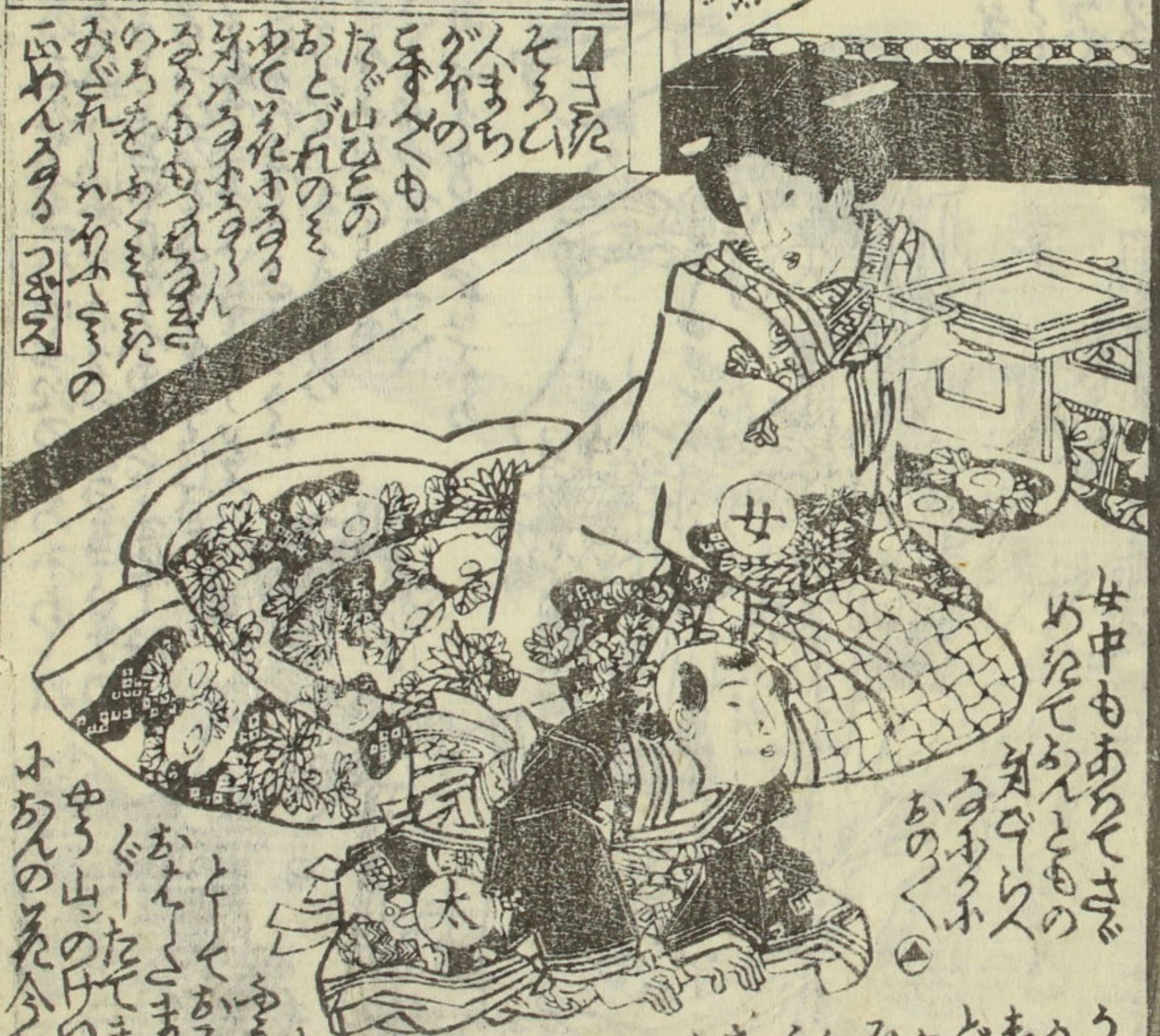
三 圓

さるやふ月日ハあのもろろ
 よりゆゆと大争く博野のふゆち
 百々日ゆゆと大争く博野のふゆち
 生もくまきやうふせのまん
 老也ひよふまめやう
 るるこのまん
 老やうまん王
 ういをめ
 りひのまん
 るれか子ふたどめ
 てのたいめんせん
 法んははへもさん
 ありむたあひまれよとの
 せしとけそれくすたう
 めでとけまのまうどま
 めとまのまのまのまのま
 ざちん入るまのまのまのま
 まつりてまのまのまのま
 とりむひつりまのまのま
 そのまのまのまのま
 ひとまのまのまのま
 どんとまのまのまのま



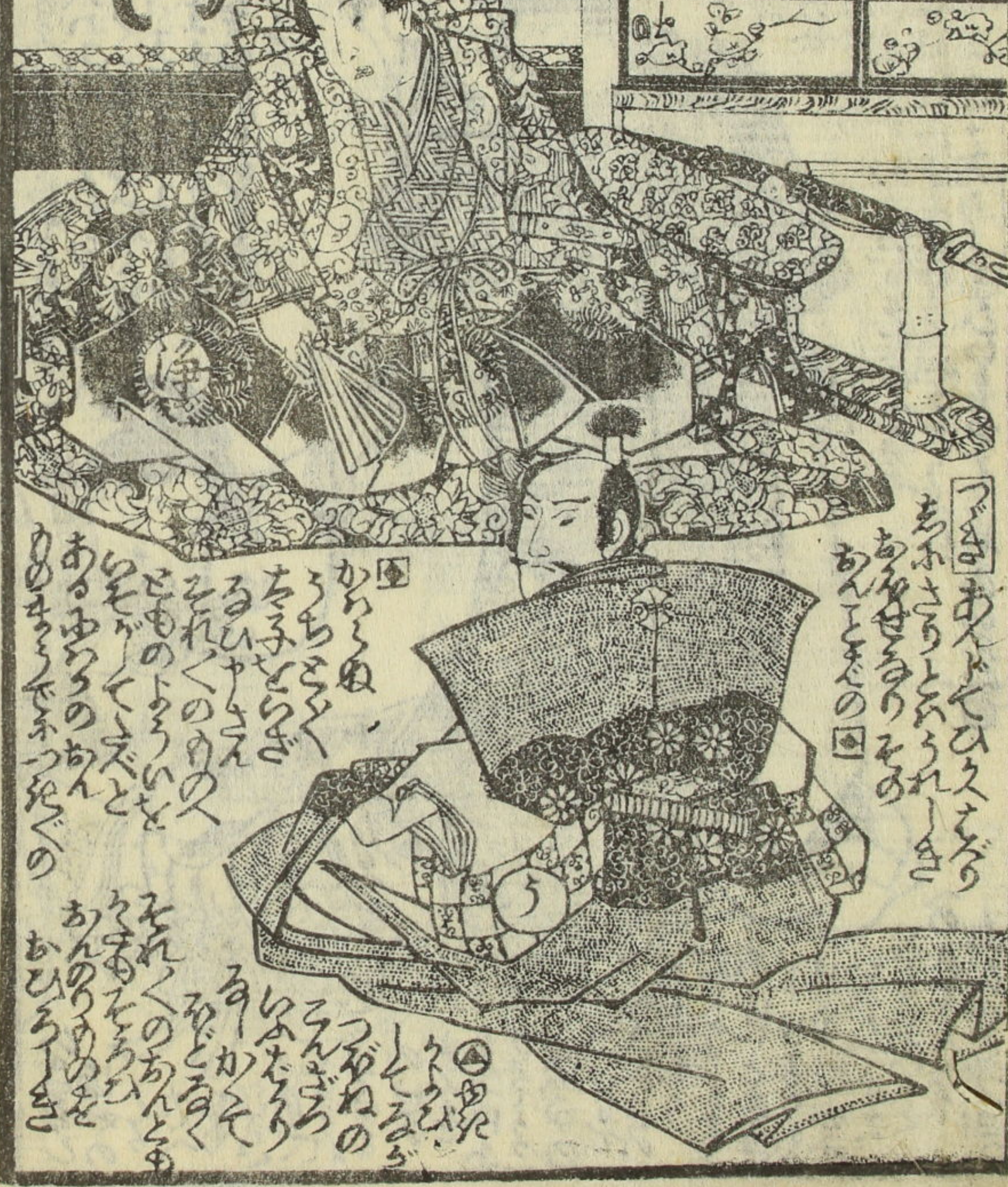
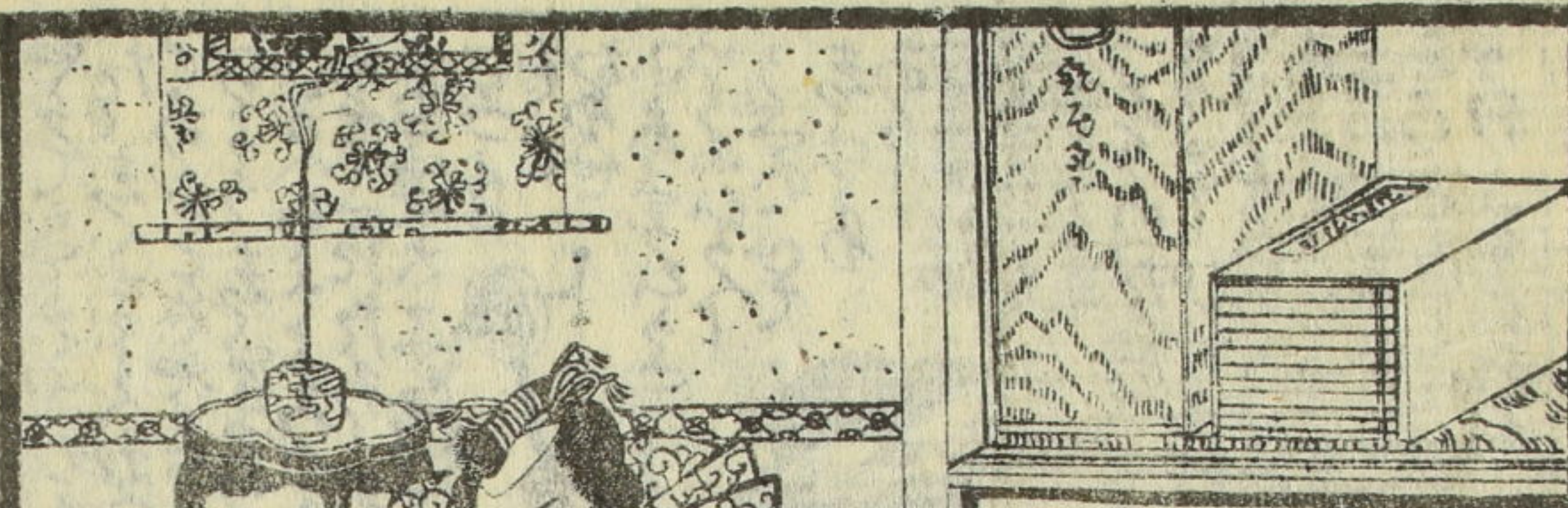
言中のゆゆと
 ことくみんあまのゆゆと
 けとくまのまべとあせあれ
 たまのまのまのま
 るるとのまのまのま
 まのまのまのま
 言中のゆゆと
 ことくみんあまのゆゆと
 けとくまのまべとあせあれ
 たまのまのまのま
 るるとのまのまのま
 まのまのまのま

番紋



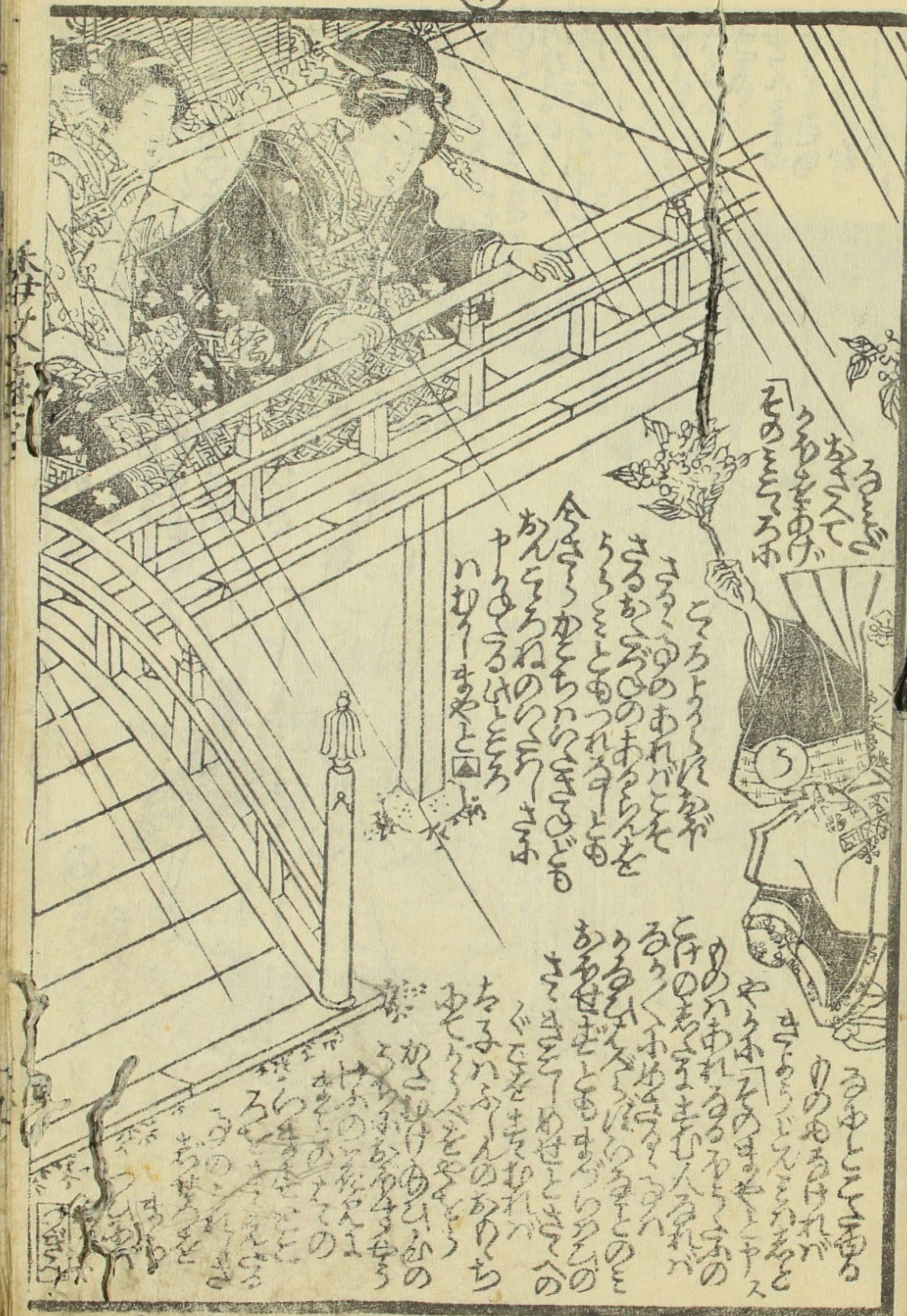
女中もあらたま
 りておんとも
 の御中
 小おんの花
 今をさうり

女中
 御中
 小おん



おんとも
 の御中
 小おん
 の花
 今をさうり

女中
 御中
 小おん



なまて
 うわさのけ
 そろそろお
 ころうらねあや
 まうのあれがこを
 さるあつちのあつちを
 うらうらつちのあつちを
 かんらんねのりつちを
 ちのりつちを
 りつちを

りつちを
 のあつちを
 やうあつちのあつちを
 こつちのあつちを
 りつちを
 あつちを
 さつちを
 ちのりつちを
 りつちを



りつちを
 のあつちを
 やうあつちのあつちを
 こつちのあつちを
 りつちを
 あつちを
 さつちを
 ちのりつちを
 りつちを

りつちを
 のあつちを
 やうあつちのあつちを
 こつちのあつちを
 りつちを
 あつちを
 さつちを
 ちのりつちを
 りつちを

陽齋豊國画○万亭應賀作○

陽齋の画は、其の筆意、
清く、淡く、静かに、
自然の趣を、
写し、
其の神韻、
余韻、
に、
余蘊なく、
其の妙、
不可言、
也、
其の画、
余蘊なく、
其の妙、
不可言、
也、
其の画、
余蘊なく、
其の妙、
不可言、
也、



釋迦八相倭文庫

編三 万亭應賀作
編四 歌川豊國画

小栗一代記

初編 松亭金水作
編二 歌川豊國画

常磐津懷中寄本

小本五册

富本懷中寄本

小本五册

奥奉公 編娘一代成人雙六

万亭應賀作
歌川豊國画

重地本錦繪團扇所

人形町通元大坂町六地
屋重藏



万
應賀作

丙午春
新版

錦重堂梓



釋迦

八相

倭文庫四編上

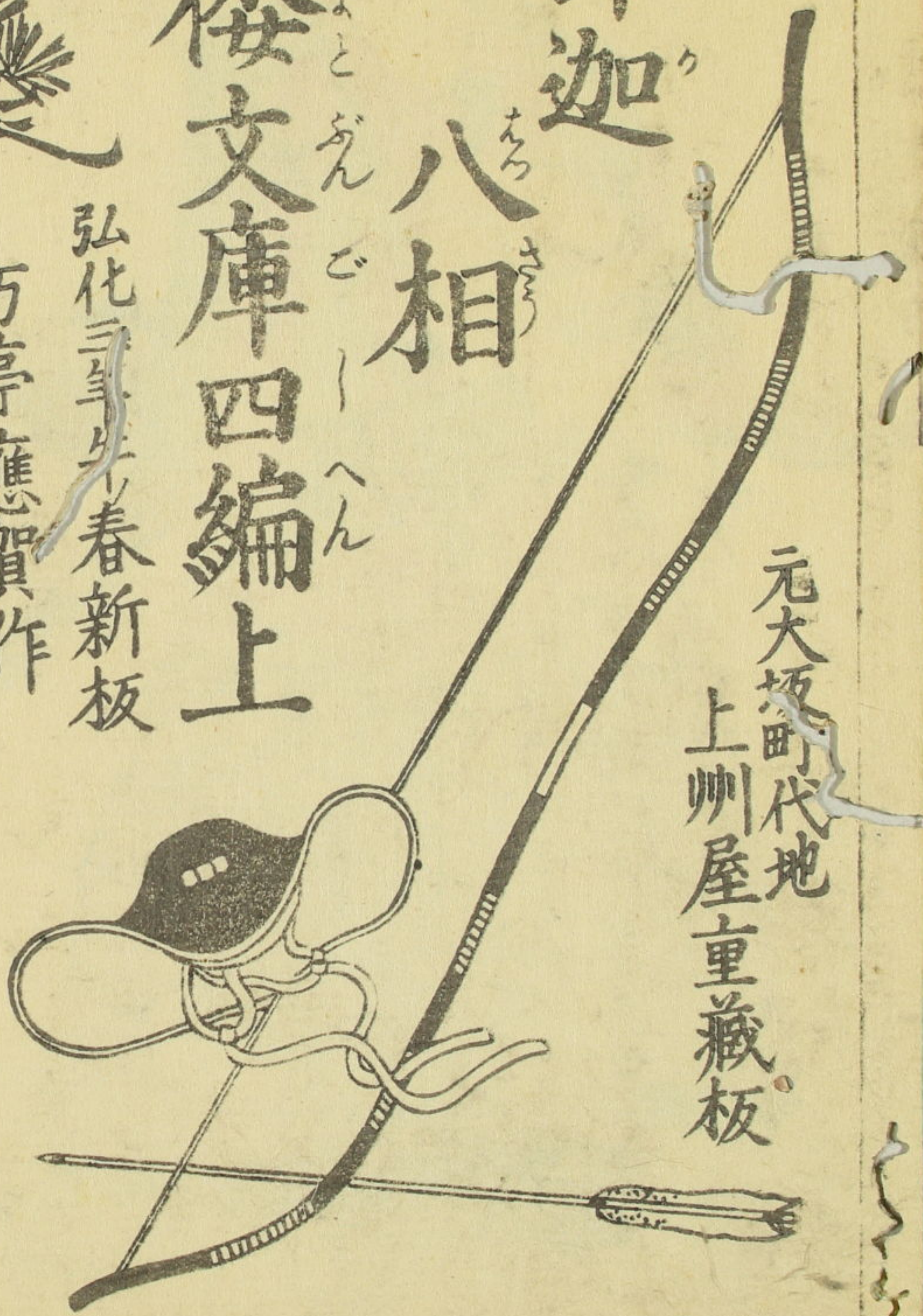
弘化三年春新板

万亭應賀作

一陽齋豊國画

元大坂町代地

上州屋重藏板



口人園正画

釋迦八相倭文庫四編の叙

夫天の命を二五の性理精きと受て生るもの人也性
理偏氣小埋まてけりもの畜類也性理幽微るると受
て生るもの草木也されその性理の精きと受て生る中も
猶貴に賢仙と望太子の流歳七也あて小弓の勝負と
あひ大悪無双の従弟る提婆達と拵ひて終小射勝玉
ひしより提婆女の念恨の始め太子九也ふしく初学乃
師小身頭賢弟の流(迂)回馬駒馬虎頭の筆勢皆流
通あるものもあやうて冬籠る此草冊子何
卒梅小先古三判あうんとと其ふと爾云

弘化三年丙午春新版

万亭應賀述

倭文庫四



西の大將

小太郎

御歳十五文

斛飯王の子

提婆達多



采達太子御歳

七女めて小弓の
勝負と催し

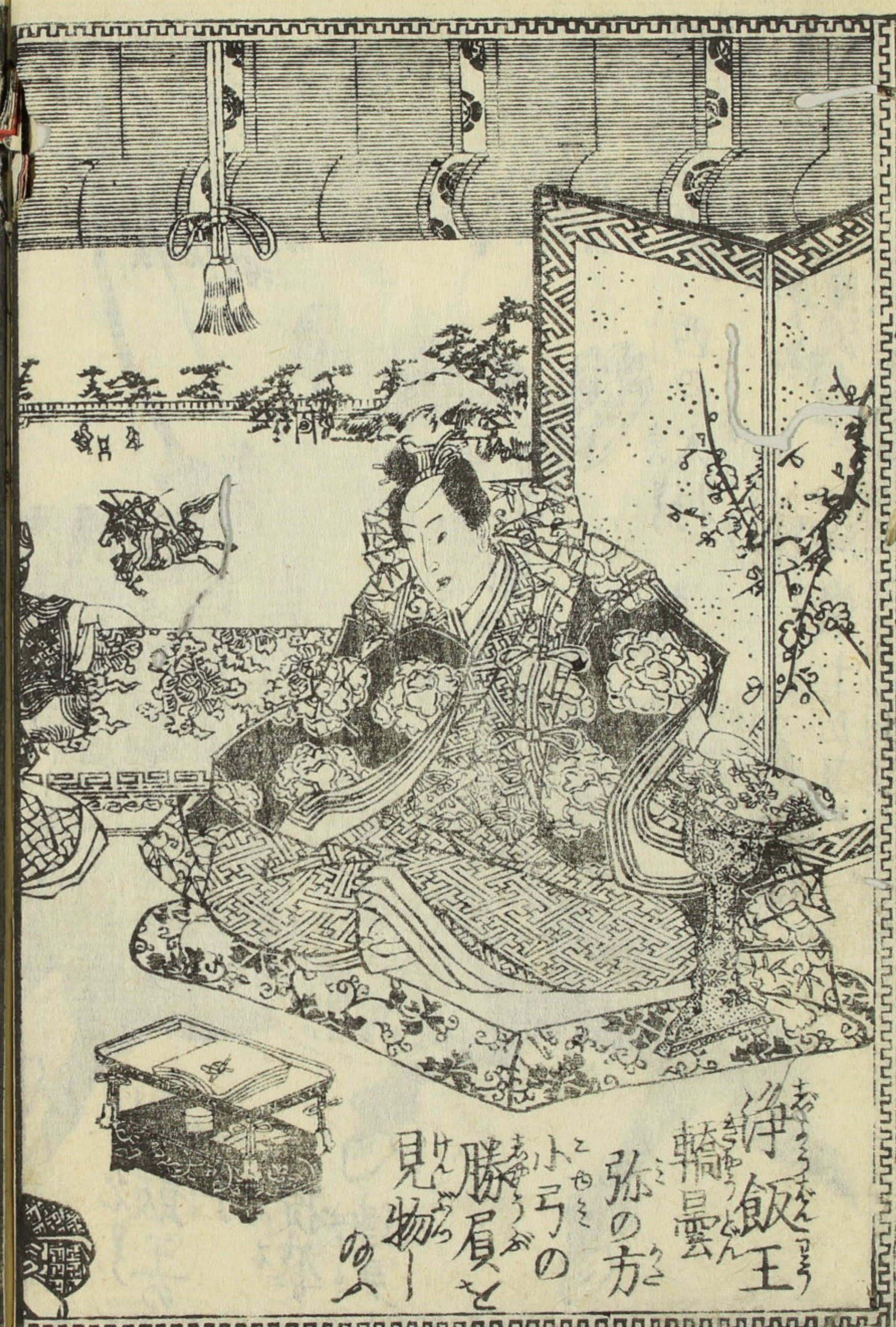
賜ふ図

悉達太子
東の大將
大太郎

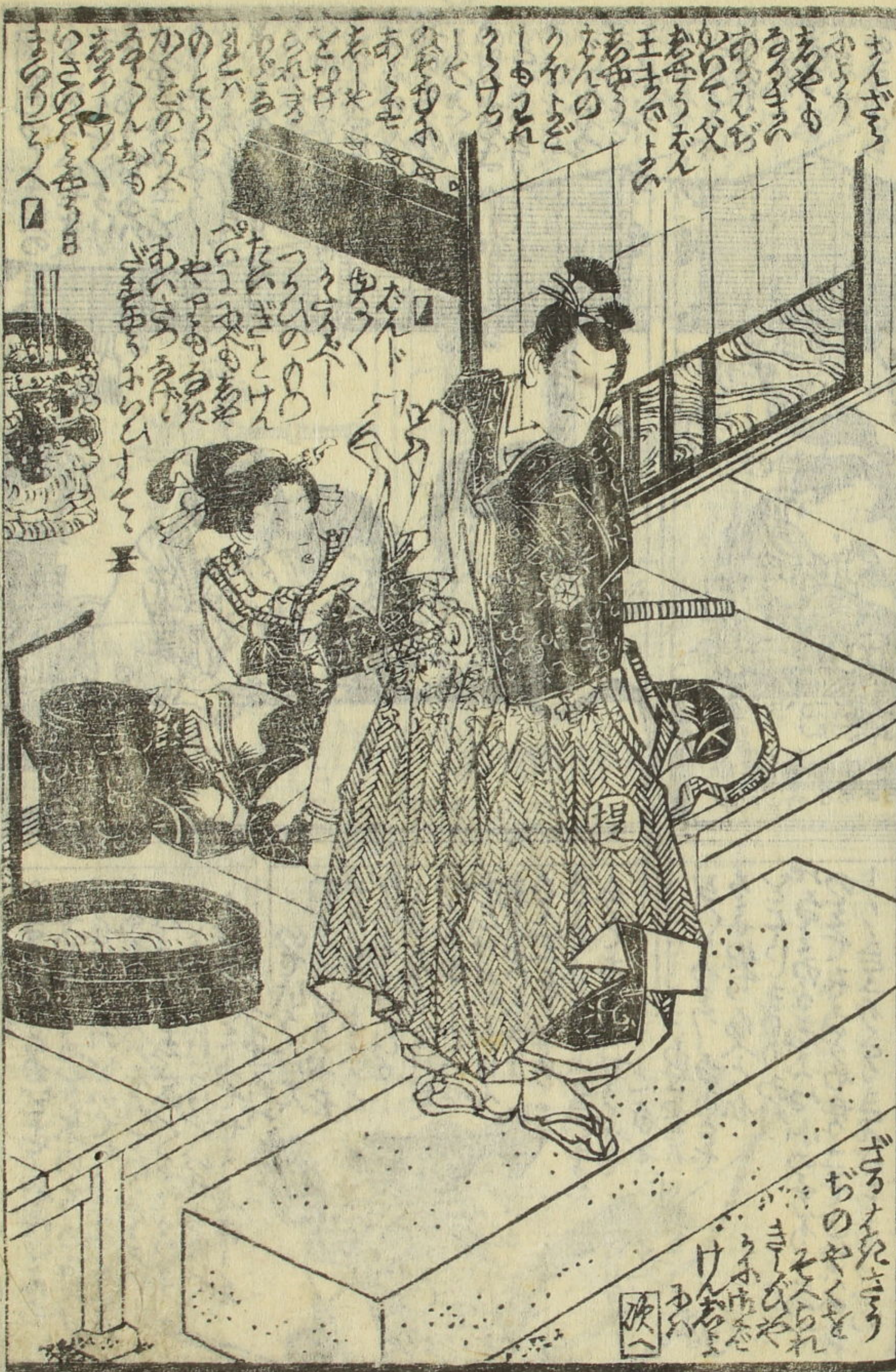


於の弥之曇之轎

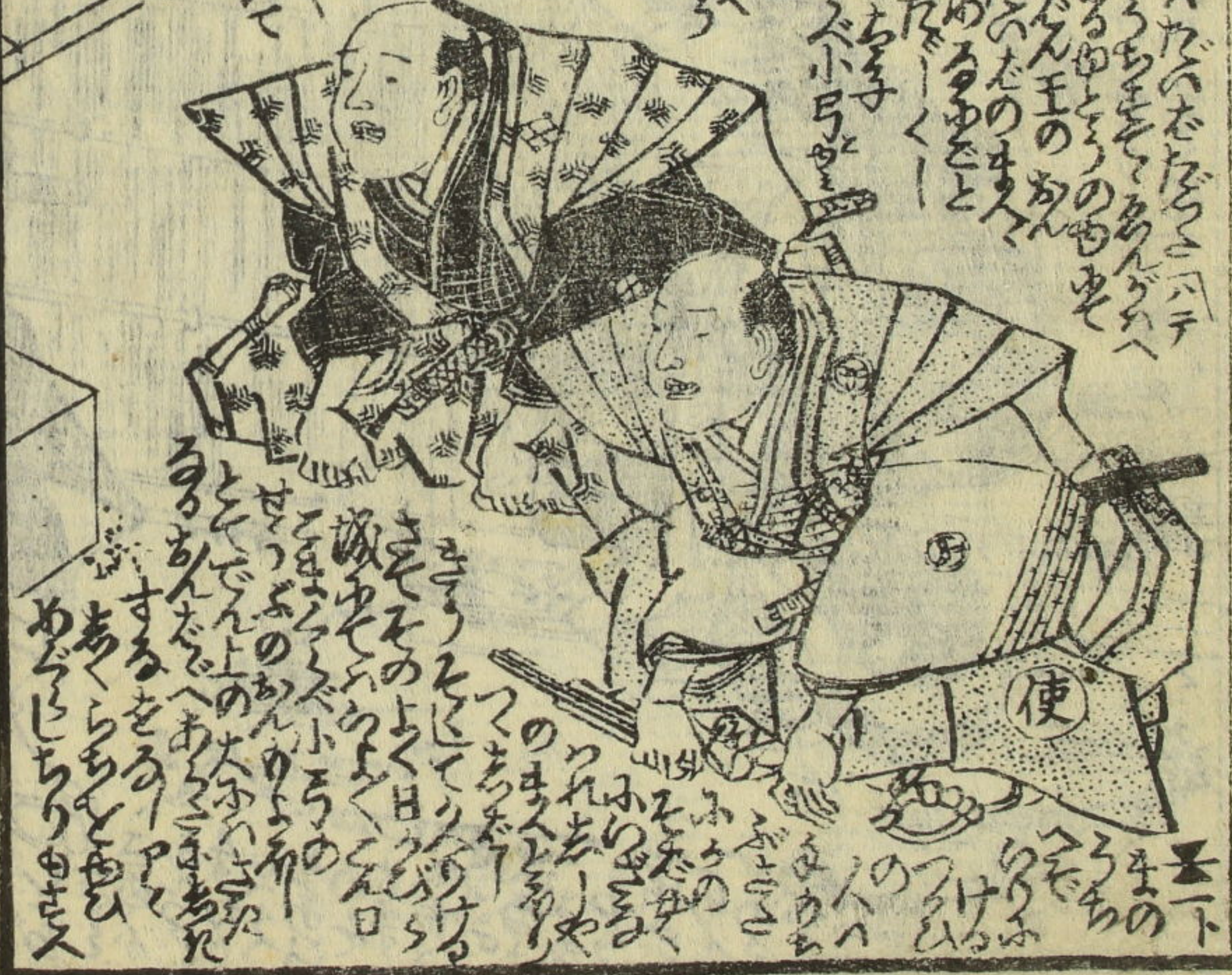
優陀の夷の女房



浄飯王の轎曇の弥の於の勝眉の物見



うらなひのまじりあはせられし事ごとくやぬればたのむたはるまて
 うらなひありてあひのまじりあはせられし事ごとくやぬればたのむたはるまて
 うらなひありてあひのまじりあはせられし事ごとくやぬればたのむたはるまて
 うらなひありてあひのまじりあはせられし事ごとくやぬればたのむたはるまて
 うらなひありてあひのまじりあはせられし事ごとくやぬればたのむたはるまて
 うらなひありてあひのまじりあはせられし事ごとくやぬればたのむたはるまて
 うらなひありてあひのまじりあはせられし事ごとくやぬればたのむたはるまて
 うらなひありてあひのまじりあはせられし事ごとくやぬればたのむたはるまて
 うらなひありてあひのまじりあはせられし事ごとくやぬればたのむたはるまて



朱筆

朱筆

朱筆

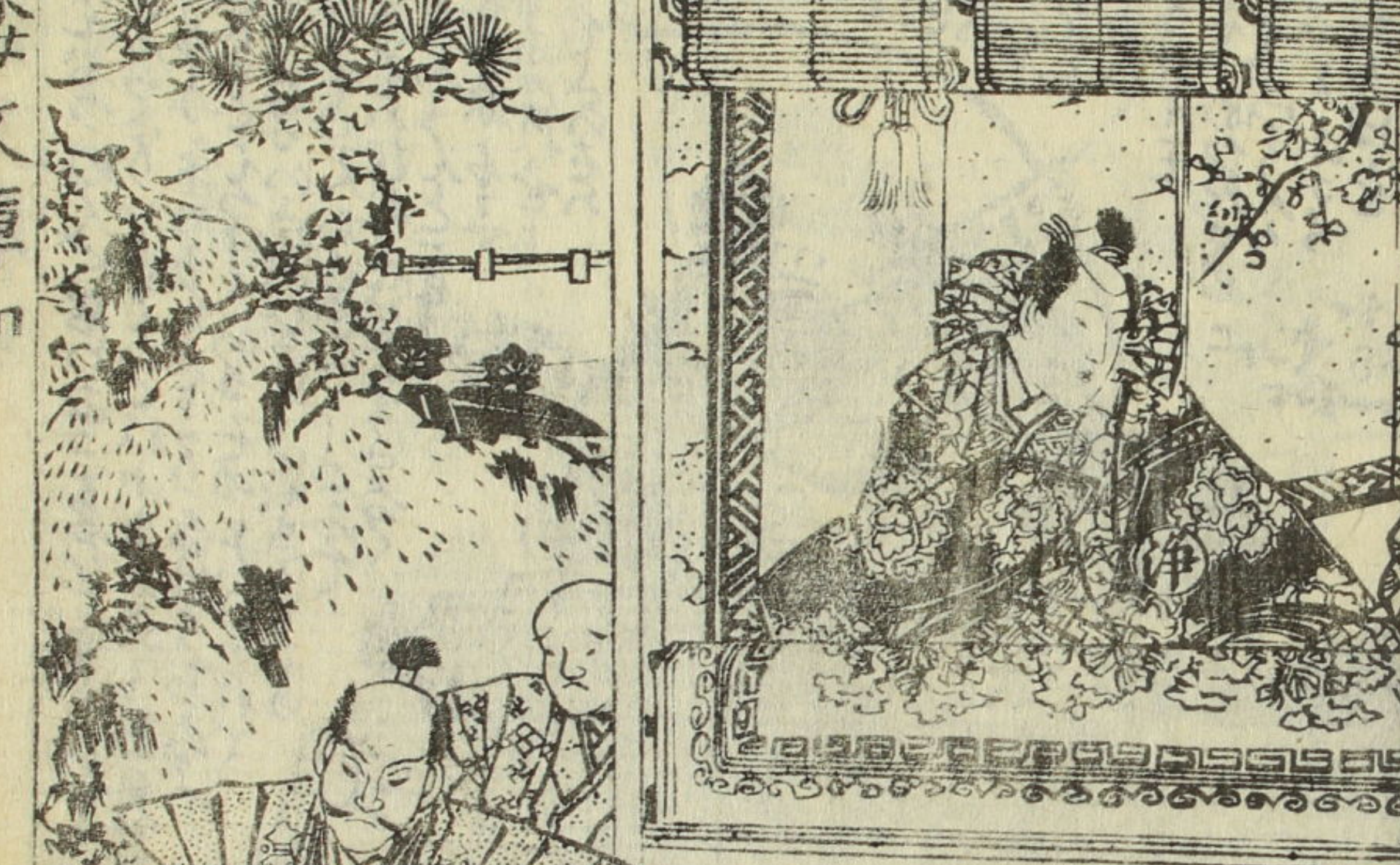
伴 女 座 四

「さき」ひてししたの
うきうきとせま
あゝとてとて
まふまふとて
さなななとて
しんごのうき月
けのうきとて
人らしとて
せんとて
あゝとて
北のうきとて
の月あきとて
のせとて
まふまふとて
さなななとて
しんごのうき月
けのうきとて
人らしとて
せんとて
あゝとて
北のうきとて
の月あきとて
のせとて



全まんとて...
あゝとてとて
まふまふとて
さなななとて
しんごのうき月
けのうきとて
人らしとて
せんとて
あゝとて
北のうきとて
の月あきとて
のせとて
まふまふとて
さなななとて
しんごのうき月
けのうきとて
人らしとて
せんとて
あゝとて
北のうきとて
の月あきとて
のせとて

つれづれのの
うきうきとて
あゝとてとて
まふまふとて
さなななとて
しんごのうき月
けのうきとて
人らしとて
せんとて
あゝとて
北のうきとて
の月あきとて
のせとて
まふまふとて
さなななとて
しんごのうき月
けのうきとて
人らしとて
せんとて
あゝとて
北のうきとて
の月あきとて
のせとて



女中とて...
あゝとてとて
まふまふとて
さなななとて
しんごのうき月
けのうきとて
人らしとて
せんとて
あゝとて
北のうきとて
の月あきとて
のせとて
まふまふとて
さなななとて
しんごのうき月
けのうきとて
人らしとて
せんとて
あゝとて
北のうきとて
の月あきとて
のせとて

伴 女 座 四

錦車堂新板繪紙目録

止日語小栗實説 初編 二編
 松亭命水作
 陽齋也

茶番獨案文全冊
 播蝶猪貞作

日蓮記旭衣 初編 二編
 陽齋豐國畫

紫菜淺草土産 三編 四編
 陽齋豐國畫

翁草千歳盃 初編
 陽齋豐國畫

赤松物語 初編 二編
 如淵外史作
 陽齋豐國畫

釋迦八相倭文庫 五編 六編 七編
 萬亭應賀作
 陽齋豐國畫



豊國画 應賀作

豊國画 應賀作

みくこのちりくはくしあ
 まごころあふきを
 ひらきとせしをひら
 のつりあひぬく
 後とりあひぬく
 たあうりあひぬく
 こころあひぬく
 こころあひぬく
 こころあひぬく

豊國画
 應賀作

三陽齋豊國画



依文庫四編



豊 應 賀 作
園 画

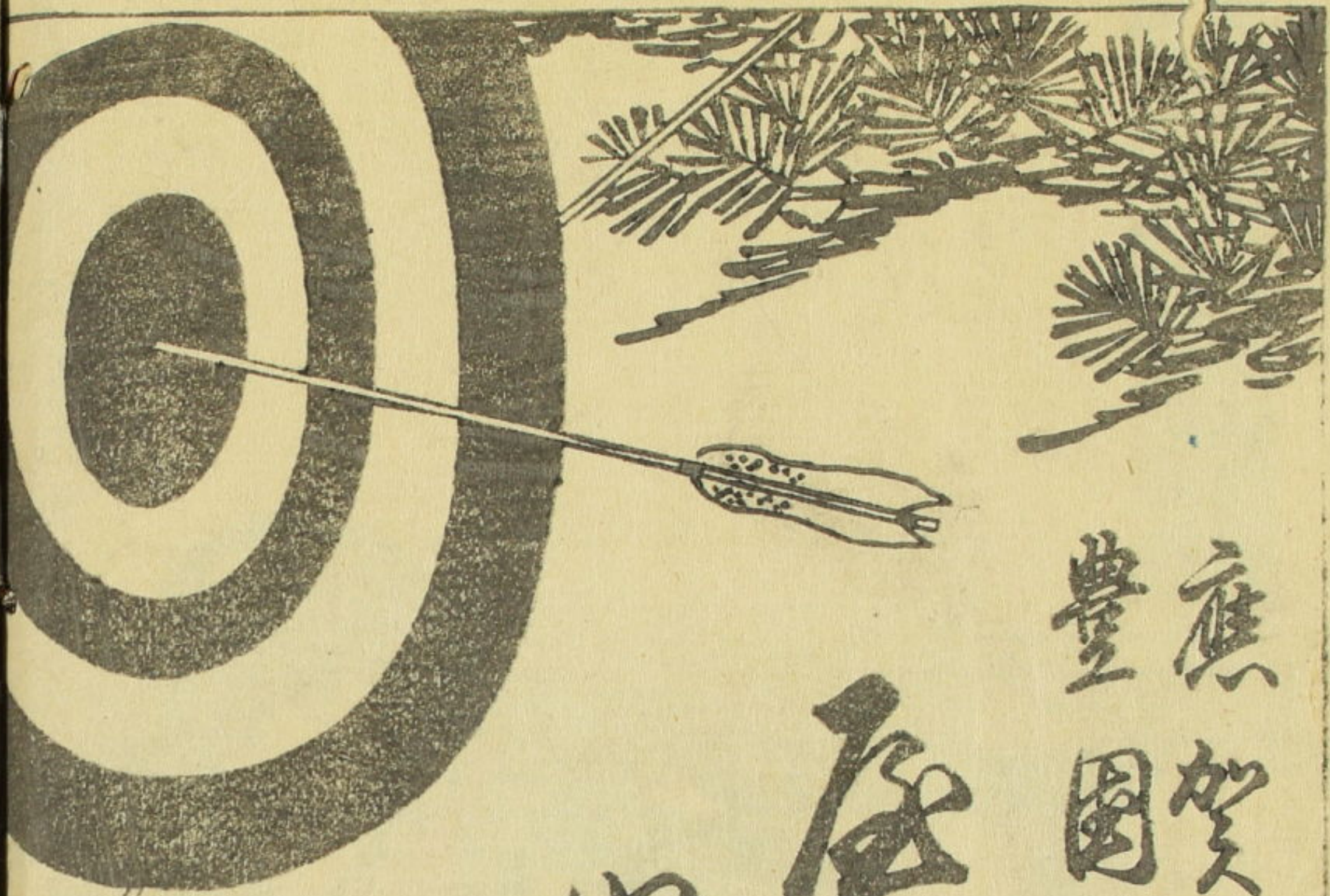
午ノ裏彩板

庭満堂

婦心より四八下

大形町通

上杉屋板

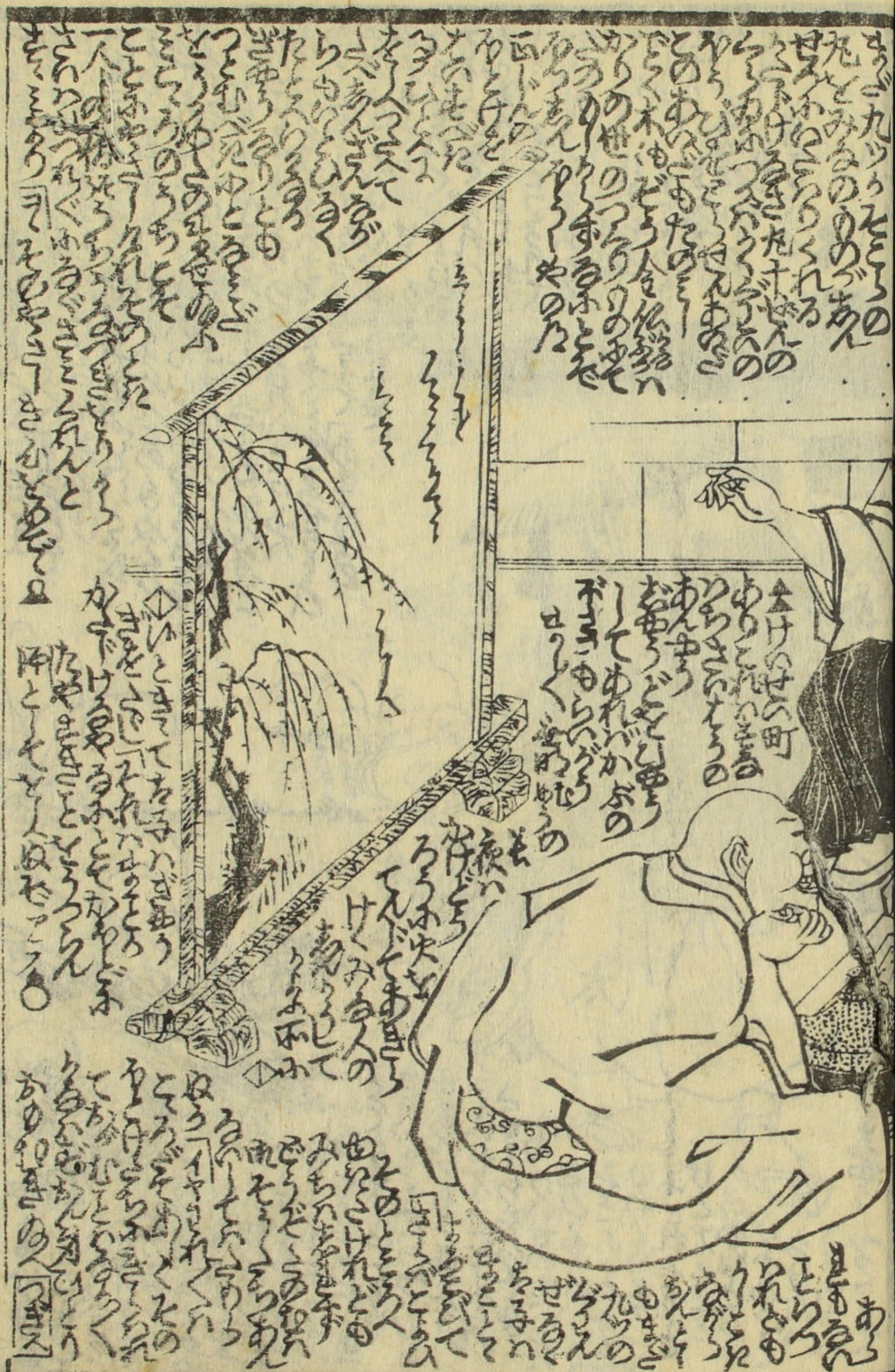


をを以
用也

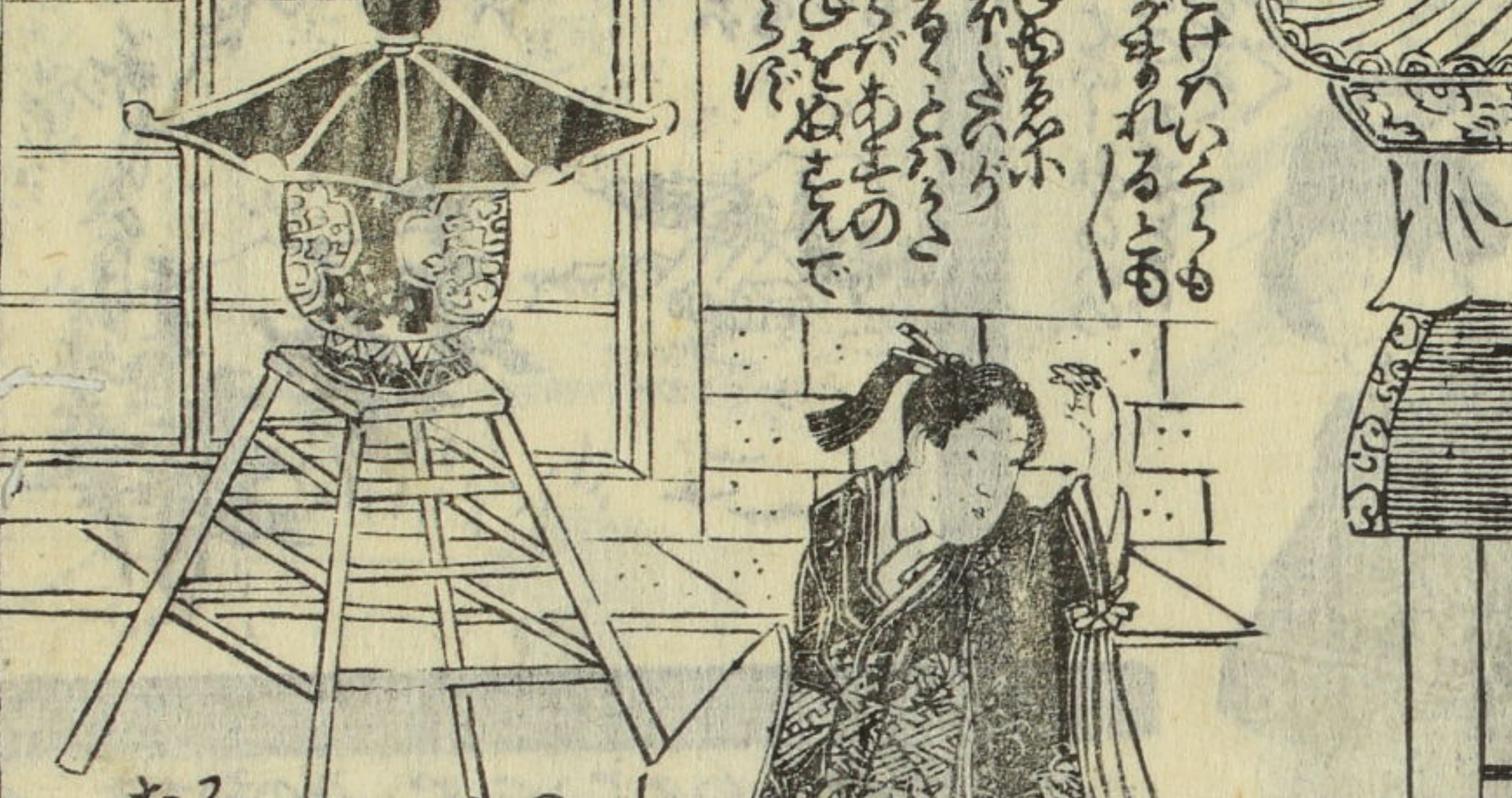
三



大正十一年



のりてこれに
 けつあまの
 くわのるる
 こころいふ
 けつあまの
 のりてこれに
 けつあまの
 くわのるる
 こころいふ



◎どうも
 あまのよめ
 のりてこれに
 けつあまの
 くわのるる
 こころいふ

あれぞり
 けつあまの
 くわのるる
 こころいふ

つまの
 けつあまの
 くわのるる
 こころいふ



のりてこれに
 けつあまの
 くわのるる
 こころいふ



伊豆

倭文庫

万言の巻
一陽の巻

四
神書



上
板